

高松学習館運営協議会（令和7年1月）会議録概要

開催日時 令和7年1月9日（木曜日）午後6時30分～7時55分

開催場所 高松学習館 第1教室

出席者 [委員] 神山敬章（明星大学名誉教授）オンライン参加

丸山あかね（立川市社会福祉協議会）オンライン参加

梅田茂之（自治会連合会栄町支部）

川合博（立川市高松児童館）

難波敦子（立川市生涯学習市民リーダーの会）

小原雅俊（たちかわ市民交流大学推進委員会）オンライン参加

戸井田宗二郎（公募市民）

委任状：栗原政子（学習館利用者団体）

欠席3名

[事務局] 榛澤尚武（高松学習館係長）、富田瑞代（会計年度職員）

定数の過半数の出席により会議成立とする。

議事

1. 会長あいさつ あけましておめでとうございます。去年は皆様のご協力のもと、無事に地域活性化講座や様々なイベントを終えることができました。本年もよろしくお祈りいたします。早々に暖房が入らない状況になっている。先を見据えた話をしたいらと思う。

2. 報告事項

・事務局より下記について報告があった。

・学習館設備ほかについて

学習館部分の空調が故障中で暖房が入らない状況。各教室に電気ストーブを設置している。暖房器具とPCを一度に使用するとブレーカーが落ちてしまうので、その日の利用状況により調整が必要となっている。当面の利用団体には状況について連絡を入れている。健康会館の方からメーカーに連絡を入れて今後調査結果が出て原因が判明すれば復旧見込みの時期が分かると思われる。

外壁の劣化については建物の近くを仮囲いしスロープの上に屋根を取り付けて通れるようにしてもらった。工法や工事の時期については未定だができるだけ早めに決定して予算を確保して契約、工事に入る予定。

委員より質問があった。

A委員：空調の件は業者に見てもらっているのか。詳しいことはわかっているか。

事務局：窓口が健康会館で本体のメーカーと日程調整中と聞いている。原因はまだわかっておらず、結果により対応する。古い施設なので以前に部品を取り寄せる（製造する）のも時間がかかったことがあると聞いている。

B委員：50年前にできた建物なのでその時期の設備ということは修理で

きない可能性もある。

事務局：健康会館の1階は空調の修理を断念して家庭用のエアコンを設置している部屋もある。

B委員：危惧するのは空調修理等の影響で今後利用者が学習館を利用できない可能性があるのかということ。

事務局：送風ができないので冷房の時期になるとかなり厳しい。

C委員：調査結果を待つしかない。

A委員：健康会館の移転の時期はいつなのか。

事務局：5月連休中に引っ越しし、連休明けには新しい場所で業務を開始する予定と聞いている。

A委員：移転後に空いた部屋を利用できないのか。倉庫として使用する予定があると聞いているが。

B委員：寒いのは着込めば何とかなる面もあるが、暑い時期は対処の仕様がな。休館になる状況も十分考えられる。

事務局：外壁と空調の両方についてまだ何も決まっていない状況。

B委員：その経過によっては5月6月の文化祭にも影響があるかもしれない。インパクトがあるのは学習館のイベントと利用団体の活動だが、児童館や社会福祉協議会は影響があるのか。

D委員：健康会館跡スペースに地域の居場所という案が挙げられているが、外壁や空調の問題があるとどうなるかわからない。

B委員：高松会館や競輪場に協力してもらって部屋を利用できないのか。

事務局：寿教室は工事を見込んで来年度分は部分的に高松会館の集会室を予約している。学習館の暖房が入らなくなって高松会館に尋ねたが今月は空きがなかった。

A委員：競輪場の会議室を借りてマンションの会議を実施している。階段は急だが無料。競輪開催日に注意する必要がある。

B委員：誰でも借りられるのか。

事務局：自治会、青少健など地域のいろいろな団体が利用している。

B委員：学習館利用団体にそういう情報も周知していくといい。

事務局：今は砂川学習館とアイムの休館期間中で一時的に高松学習館を利用している団体も多くある。

B委員：いずれにせよ、利用者には早めに告知をいただきたい。

3. 協議事項

(1) 前回議事録（案）について 承認された。

A委員：前回会議で利用者懇談会について提案して実施は難しいということだったが、高松会館やアイムでも行っている。成果物を出展する文化祭に関係する団体だけではないと思う。

事務局：利用者懇談会を実施するなら、それに向けての準備が必要かと思う。利用団体も様々あるので、対象団体や内容について決めてから実施したい。

A委員：懇談会は最初から上手くいかないかもしれない。先日の研修でいろいろな人達との意見交換があって有意義だったとお聞きしたので、学習館でも活かしていただけたらと思う。建て直しについても利用者の意見、要望を吸い上げていくことが先々のより良い施設づくりにつながると思う。

B委員：施設面の問題が出てきている現状を思うと、方向性が出た段階で懇談会を実施するのもいいのではないかと思う。利用者の方は困りごとを抱えるのでそういった声を学習館は聞いていく方がいいのではないか。

懇談会について掲示をして出席したい団体に出ていただけたらいいし、この状況では実施すべきと思う。

A委員：まちづくりという観点からも何回か実施して決めていけばいいと思う。

(2) 高松学習館の取り組みについて

・ 地域活性化事業について

事務局より今後実施する地域活性化事業と催物事業について説明と報告があった。1/16「はじめての宅トレ」は10名申込みを受付している。1/25「落語会」は定員60名に達している。「フレイル予防体操」と「たかまつ映画会」は明日より受付開始だが、空調の件も伝える。

2/22「誰でもコンサート」は金管五重奏でさかえ会館で開催する。応援スタッフの確認をした。梅田会長、難波副会長

障がい者理解プロジェクト予算で実施のため生涯学習推進センター主催。

3/1 防災講座に参加できる方はお願いしたい。

(3) その他

- ・ 次回の会議開催日程について：2月13日(木)午後6時30分～第1教室
ひき続き、空調故障ならハイブリッドで実施の可能性あり。
- ・ 地域学習館運営協議会交流会開催：令和7年2月15日(土)午後1時30分～会場：市役所3階302会議室
出席委員：梅田会長、難波副会長
- ・ 学校たより 第2中学校区の小中学校のおたよりを配布しているのでお読みいただきたい。
- ・ きらり最新号には高松図書館、さかえキッチン、市民リーダーの記事が掲載されている。編集者が新しくなって見やすくなった。

4. 地域課題共有

- ・ E委員：高松児童館では1/6お正月あそびに18名参加があった。
12月はインフルエンザ流行で学級閉鎖が相次ぎ、来館の子どもが少なかった。12/22読み聞かせと12/25スポーツの日のイベントは事前申込数が少なく、当日来館者に声をかけて参加を募った。お正月あそびは駒回し、羽子板、福笑いなど子ども達には珍しい遊びだったようで楽しんで参加してくれた。今後も昔あそびを定期的実施していきたい。
- ・ A委員：1/26学習会(ノーモア・ヒバクシャ！核兵器も戦争もない世界を！)をノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会から講師を招いて開催する。

今までに資料が1万2千件以上集まって保管されている。Webなどで拡げて記憶遺産を継承、伝承していく取り組みを行っている。ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(被団協)と連帯して活動している。安全性を確保しながら市民が困ったことがあったら連絡を取り合えるようなグループ(メール、ライン)を拡げられたらと思う。

立川でも平和資料館をつくるような話を聞いたが、反戦争、平和の大切さということを伝承していけたらと思う。

- ・ D委員：まちねっと2月号を1月下旬から各家庭に配布する。曙町、高松町の高齢者の方からの提案があり、2/21に地域食堂の懇談会を開催する。会場の学習館の施設面が少し心配になっている。
- ・ A委員：地域食堂と子ども食堂は異なるのか。
- ・ D委員：地域食堂は子どもだけでなくどんな方でも来てくださいと門戸を広げている。高齢者で一人でもOK。詳細はまちねっとに掲載している。
- ・ F委員：市民推進委員会で来年度は3つの講演会を企画している。ジョージア大使館の方の講演会、立川の古い写真と映画の街立川の講演会、ノーベル平和賞受賞の東友会・家島さんがノーベル平和賞について講演会をしてくださることになっている。開催日程については調整中。
- ・ B委員：FMたちかわの市民パーソナリティをやっている。昨年6月からスタートした。月1回水曜の午後7時30分～町をつなぐ市民パーソナリティ(FM84.4)。今度は3クール目に入るので3人体制で実施することになっている。東日本大震災の時にFMたちかわの取材担当の藤巻さんは家屋の損害保険の査定をされていた。惨状を前にして、被災者の家族はバラバラになってわからない、自宅の様子、地域について全く情報がない状況だった。皆さん身近な情報がなく不安を抱えていた。そんな中、地元の高校生がパーソナリティを交替でやって24時間情報を流してくれた。そういう市民パーソナリティをたくさん育成して災害に強い町にしていくことを目指し取り組んでいる。今後FM福生や多摩地域に展開していく予定。
- ・ C委員：私達も意識改革された。FMラジオの市民パーソナリティの取り組みによって、助けてもらう立場から助けていく立場にという意識が変わってきた。
- ・ B委員：今までにラジオ市民パーソナリティ講座を40～50人位の方が受講されている。
- ・ G委員：FMラジオの件は大事なことだと思う。自分自身もコミュニティいわきで月1回30年以上番組に関わってきた。いわきでは災害ということを意識して、阪神淡路大震災の際にコミュニティFMの活躍が素晴らしかった。どんな状況下でも市民パーソナリティの方は地域情報を発信し続けた。そういったFMラジオの方向性が市民レベルの中で浸透していくべき。地方では車通勤でチャンネルを合わせて聞く方が多いので県外の方も聞いてくれている。ネットワーク化を図っていくことが大切。学習館の管理運営の部分で大変だと思うが、ハード面については行政の役割として、早急に情報をキャッチし今後について早く方向性を決定し、公

式的に市民にいち早く情報を発信していくべきだと思う。館の役割として、いち早く市民に情報を伝えていくこと。地運協はアドバイスしていく役割がある。地運協は中身について考えていく。利用者懇談会は対立構想になるとよくない。団体から要望や意見などの声をどういう風に運営の中に反映させていくか、情報共有することが大事。地運協のメンバーには利用者も含まれているので情報の広がりにもつなげていける。

今後リモートも上手く活用しながら情報共有を図っていく。他の利用者の要望をどのように吸い上げていくかなど、役所的な対応ではなく、コミュニケーションを取っていく。要望を全て受け入れるということではなく、わきまえた上で今後の運営につなげていくことだと思う。

以上